

平成26年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立陽東中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成26年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成26年4月22日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A 232人 国語B 232人

② 数学A 232人 数学B 232人

5 留意事項

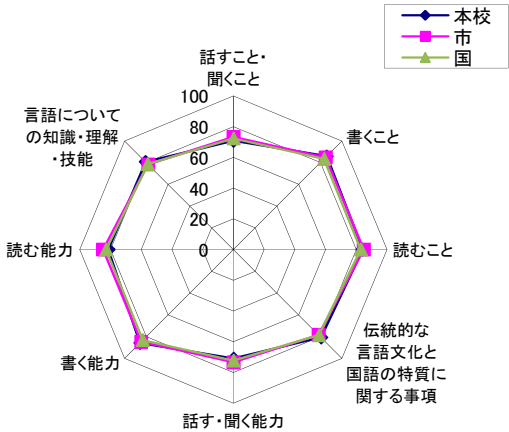
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立陽東中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

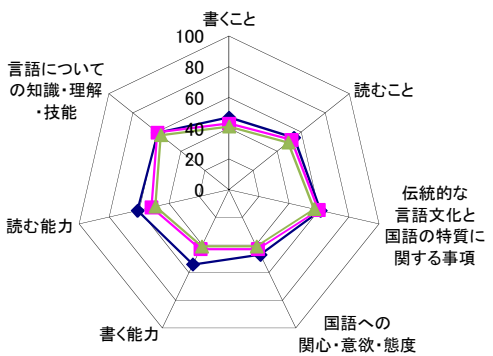
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	70.9	73.4	72.3
	書くこと	85.9	84.9	83.4
	読むこと	84.1	84.8	82.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	80.8	78.5	78.7
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	70.9	73.4	72.3
	書く能力	85.9	84.9	83.4
	読む能力	81.4	84.8	82.9
	言語についての知識・理解・技能	80.8	78.5	78.7



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと			
	書くこと	47.0	43.0	41.0
	読むこと	54.1	51.9	49.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	61.1	59.7	56.8
観点	国語への関心・意欲・態度	47.0	43.0	41.0
	話す・聞く能力			
	書く能力	54.1	43.0	41.0
	読む能力	61.1	51.9	49.2
	言語についての知識・理解・技能	59.3	59.7	56.8



★国語に関する質問紙調査の状況

○「国語の勉強は好きですか」という問いに58.7%が「好き」と答えている。また、「国語の勉強は大切だと思いますか」という問いには91.4%が「そう思う」と答えている。本校には国語に対して前向きな姿勢で取り組む生徒が多いことが分かる。「国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか」という質問には「あまりしていない」「していない」と答えた生徒が合わせて51.7%となり、相手に伝わるように、分かりやすく話をするのを難しいと感じていることがわかる。また、「読書は好きですか」という質問には79.3%が「好き」と答えている。これらのことから、普段の読書習慣があり、国語に対する意識は高いが、相手に分かりやすく伝えるというコミュニケーション能力に自信がないことがうかがえる。

○良好なもの ●課題が見られるもの

★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

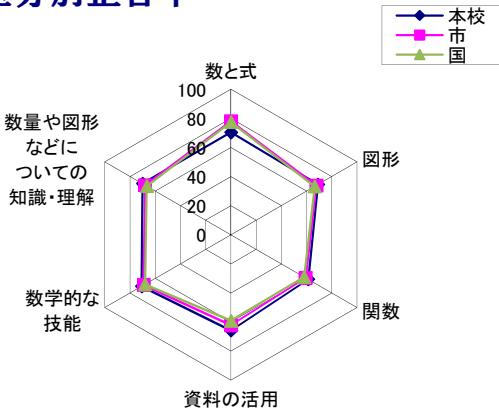
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○聞くことの問題において、必要に応じて質問し、足りない情報を聞き出す力を試す問題では、市や全国の平均よりも高い結果となった。 ●全国の平均と比べ、1.4ポイント低く、市の平均と比べても2.5ポイント低い結果となった。本校の生徒は、意見の相違点を聞きとったり、司会として話し合いをまとめることに課題がある。	・授業において、CDを使った聞き取りの問題などは行っているが、話し合った内容の違いを互いに指摘したり、司会として話し合いをまとめたりする経験が少ないと考えられる。普段の授業から、発言に対してよく耳を傾ける指導はもちろん、話し合い活動を取り入れ、司会の経験をする機会や、互いに学び合える機会を多く作ることが重要である。
書くこと	○書くことの問題において、国語Aでは全国平均に比べ、2.5ポイント高く、国語Bでも全国平均に比べ6.0ポイント上回った。市の平均と比べても高い数値を示している。特に書き換えの問題に強いという結果となった。 ●自分で考えて書き加える問題においては、全国や市の平均を下回っていた。自分の考えを文章に表すことを苦手としているようである。	・普段の授業において文章を読んだ感想を書くなど、書くことの指導をしているが、例えば資料やグラフから情報を読み取って、それを他者に伝えるということはなかなかできていない。しかし、書く能力を問う問題では、単に感想を書くということではなく、資料を正確に読み取る力も必要である。そこで、考えを書く指導だけではなく、正しく読み取った情報を分かりやすくまとめて伝える方法を重点的に指導することが重要である。
読むこと	○読むことの問題において、国語Aでは全国平均に比べ1.9ポイント高く、国語Bでも全国平均に比べ4.9ポイント上回った。特に説明的文章の読解において高い正答率となった。 ●小説の問題においては、平均を下回った問題があった。特に登場人物の心情や行動を捉えて答える問題や、資料を比較して要旨を読み取る問題を苦手と感じている。	・文章や資料から読み取った内容を、分かりやすくまとめる力を問う問題が、市や全国の平均に対して低く、苦手な傾向がみられる。読むことの問題においては、読み取った内容を書いてまとめる力も必要である。こういった力を養うためには、文章を要約する力が必要である。授業で教科書の文章を要約する作業を取り入れ、繰り返し行うことで、文章中の要点を見つけ、簡潔にまとめる力を養うことが重要である。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の問題において、国語Aでは全国平均に比べ、2.1ポイント高く、国語Bでも全国平均に比べ4.3ポイント上回った。漢字の読みに関しては8割を超える正答率だった。 ●慣用句やことわざを問う問題では、他の問題と比べてやや正答率が低かったため、多くの言葉に触れる機会を増やすことが課題である。	・漢字の読み書きは国語の知識の基本になるので、新出漢字のテストを行うなど、今後も学力の定着を目標に指導していく。また、慣用句やことわざなどは、授業中に調べることはほとんどなく、家庭学習で自主的に調べるものとなっている。その習慣を身に付けさせる指導や、読書や新聞を読むなど、活字に触れる機会を増やすための指導が必要である。また、分からない言葉をすぐに調べる習慣も身に付けさせたい。

宇都宮市立陽東中学校 第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

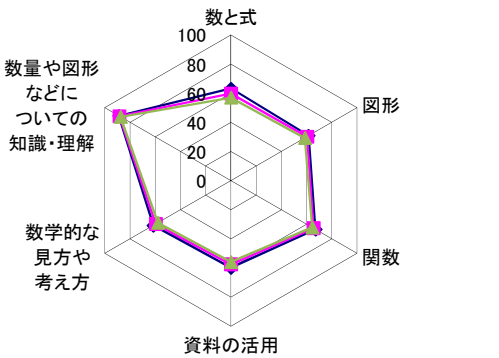
【数学A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	数と式	70.4	78.0	77.4
	図形	69.1	67.8	66.4
	関数	61.3	59.3	58.0
	資料の活用	65.8	62.2	59.1
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能	70.8	69.3	68.2
	数量や図形などについての知識・理解	70.1	68.2	66.8



【数学B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	数と式	63.2	59.8	56.9
	図形	61.5	60.3	58.6
	関数	66.9	65.5	64.4
	資料の活用	59.9	57.5	55.9
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	61.6	59.6	57.9
	数学的な技能			
	数量や図形などについての知識・理解	88.8	88.4	87.5



★数学に関する質問紙調査の状況

○「数学の勉強は好きですか」という問いに対して、61.3%の生徒が「好き」と答えている。「数学の勉強は大切だと思いますか」という問いには、87.9%の生徒が「大切」と答え、「数学ができるようになりたいですか」という問いには、95.7%の生徒が「できるようになりたい」と答えている。また、「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」と答えている生徒は79.3%いる。これらの結果から、生徒は数学は大切な学習でありできるようになりたいと思っている。しかし、25.5%の生徒は「数学の授業内容がよく分からない」と答えており、25%の生徒は「解き方が分からないときは、諦めてしまう」と答えている。生徒の「数学ができるようになりたい」という思いに応えられるような授業を展開する必要がある。

★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○数学Aでは2.0ポイント、数学Bでは6.3ポイント全国平均を上回っている。特に、「一元一次方程式を解く」では9.0ポイント、「連立二元一次方程式をつくる」では7.8ポイント高い。 ●「指数を含む正負の計算」では12.9ポイント、「絶対値の意味」では2.1ポイント全国平均を下回っている。また、「連立二元一次方程式を解く」では無解答が10.3%もいた。	・ワークやプリントなどを利用してドリル学習を繰り返し学習させてきた成果が出てきた。今後も定期的に復習させていくことが大切であると考え。 ・全国平均を大きく下回っていた原因としては、不注意な計算ミスが考えられる。解く速さと正確さを両立できるように、プリント学習の時などに短時間で行うなど工夫をしていきたい。
図形	○数学Aでは2.7ポイント、数学Bでは2.9ポイント全国平均を上回っている。特に、「図形の性質を、構想を立てて証明する」では11.5ポイント、「円錐の展開図からおうぎ形の半径を読み取る」では7.6ポイント高い。 ●「事象を理想化・単純化し、その結果を数学的に解釈し、問題解決の方法を説明する」では、全国平均を5.4ポイント下回り、無解答も10.8%もいた。	・授業やワークで学習した問題に対しては正答率が上がるが、実生活に関連したような内容の問題になると正答率が下がってしまう。パターン化したような解決方法だけでなく、じっくりと考えるような証明の学習も授業に取り入れていく必要がある。
関数	○数学Aでは3.3ポイント、数学Bでは2.5ポイント全国平均を上回っている。特に、「一次関数のグラフを選ぶ」では7.7ポイント、「グラフの特徴を事象に即して解釈し、グラフを選ぶ」では5.1ポイント高い。 ●全国平均よりも下回っているのは、「反比例について、グラフと表を関連づけて理解する」で、2.2ポイントである。しかし、無解答の割合が10%を越えているものが2つあり、「関数の意味を理解している」が12.9%、「比例の関係を式に表す」が11.2%であった。	・関数への苦手意識が強く、基本的な問題においても難しい問題であると思ひ込む傾向がある。「関数の式に表す」や「グラフをかく」だけの学習にならないように、グラフ・式・表などと関連づけた授業展開を心掛ける必要がある。 ・関数への苦手意識をなくしていくために、ドリル学習を取り入れ、繰り返し復習をさせていきたい。
資料の活用	○数学Aでは6.7ポイント、数学Bでは4.0ポイント全国平均を上回っている。特に、「度数分布表から相対度数を求める」では10.7ポイント、「確率の意味を理解している」では6.6ポイント高い。 ●確率の問題での無解答率がやや高い傾向がある。特に、「樹形図を利用して確率を求める問題」では、8.2%、6.5%となっている。	・全国平均を下回る問題はなかったが、他の領域のように授業で繰り返し学習することが少ないため、定着が図れていない生徒もいる。課題学習などを通して、理解の定着を図っていきたい。

宇都宮市立陽東中学校第3学年生徒質問紙調査

★傾向

○良好なもの ●課題が見られるもの

<学校や家庭での学習について>

- 家庭学習については平日の学習時間が2時間以上（33.2％）：県、国を下回っている。
 - 土日の学習時間は3時間以上（21.5％）2時間以上（47.4％）：県、全国よりも多い。
 - 家で宿題をしている（肯定率88.8％）：国は上回っているが、県は下回っている。
 - 予習をする（肯定率43.9％）：県、国を大きく上回っている。
 - 復習をする（肯定率58.2％）：県を下回っている。
- 学習に対して意識の差が大きく、家庭学習が定着が不十分であることがわかる。今後は適切な宿題を与えたり、計画的に学習する習慣を定着させ、学習に取り組む環境づくりをする。

- 感想文や説明文など書くことは苦手と思わない（肯定率40.5％）
 - 自分の考えを他人に説明したり、文章に書くことが苦手と思わない（肯定率35.3％）
：どちらも県、国よりも大幅に上回っている。
 - 友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意（肯定率47.9％）
 - 友達に伝えたいことをうまく伝えられる（肯定率が71.9％）
 - 話し合う時友達の話や意見を聞く（肯定率92.2％）
：いずれも県の肯定率を下回っている。
- 書くことは得意であるので、自分の考えをまとめることができる。しかし、人と話したり、意見を述べたりするコミュニケーションが苦手である。普段から言語活動を充実させたり、学習形態の工夫したりすることが一層求められる。

- 一日の読書時間について、1時間以上読書する（12.1％）
 - 図書館へ月に1回以上は行く（16.4％）
：どちらも県、全国を下回っている。
 - 不読率（25.0％）：県、全国より低い。
- 本を読まない生徒の割合が低いのは、朝の読書の時間の効果といえるが、全般的に読書の時間が少ないので読書の楽しさや大切さなどを伝える指導が必要である。

- 総合的な学習の時間に対し、課題を立て、調べたことを発表する（肯定率72.5％）
 - インターネットや本で調べ活動をよく行っている（肯定率59.9％）
：どちらも県、国を上回っている。
- 充実した総合的な学習を行うことができたといえる。地域や社会への意識の高さにもつながっていると思われる。

- 授業のはじめに目標が示されたか（肯定率が70.7％）：県、国を下回っている。
 - 授業の終わりに学習の振り返り活動をよく行ったか（肯定率54.4％）：国は上回るが、県を下回っている。
- 授業の目標を明確に示し、授業の最後に振り返りを行う基本的な授業展開を、教員がもう一度意識的に努力が重要である。

<毎日の生活について>

- 学校へ行くのは楽しい（83.7％）：県よりやや低い国は上回っている。
- 先生は自分のよいところを認めてくれている（肯定率80.2％）：県、国を上回っている。
生徒は居がいのある学校生活を送っているといえる。
- 学校の規則を守っている（肯定率93.1％）：県をやや下回っているが、国とはほぼ同率である。
- 友達との約束を守っている（肯定率98.7％）：県、国を上回っている。
規範意識が高く、これまで培った決まりやマナーに対する指導が定着していると思われる。今後はさらに道徳などの授業を通して、社会生活においての必要性や意義など指導を行う必要がある。
- 自分にはよいところがある（肯定率74.1％）
- 将来の夢や希望を持っている（肯定率77.6％）
：どちらも県、国を上回っている。
自己肯定感が高く、将来への希望をもち前向きに生活している。

○人の気持ちがわかる人間になりたい（肯定率96.1％）

○いじめはどんな理由があってもいけない（肯定率96.0％）

：どちらも国、県を上回っている。

思いやりがあり、いじめに対して毅然とした態度で取り組んでいる。今後も実生活や道徳の時間などを通して具体的な資料に基づき豊かな心を育てていきたい。

○地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある（肯定率67.3％）

○地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことがある（肯定率43.9％）

：どちらも県、国を大きく上回っている。

社会や地域の一員として自覚や責任を持って生活している。

○朝食を毎日きちんと食べる（肯定率95.2％）：県、国を上回っている。

○毎日同じ時刻に起きる（肯定率93.1％）：県とほぼ同率、国は上回っている。

肯定率が高いことから、基本的な生活習慣が整っている生徒が多い。今後、さらに各種たより等で啓発に努め、生活のリズムを整える指導を行うことが大切である。

○一日に見るテレビ等を見る時間が2時間以上（45.7％）

○スマートフォン、携帯電話の利用時間が2時間以上（25.4％）

：どちらも県、全国を下回っている。

●ゲームをする時間が2時間以上（38.4％）：県、全国を上回っている。

携帯電話やスマートフォンの利用について、学校からの呼びかけや指導が効果を現し始めているようで、家庭である程度規則正しい生活ができていると思われる。しかし、ゲームについてはややけじめがないことがわかる。家庭でのルール作りを呼びかける必要がある。どちらについても、今後も継続的に啓発を行い、家庭の教育力を付ける必要がある。